

連合神奈川ピースウィークにあたり

広島と長崎に人類史上はじめての原子爆弾が投下されて、今年で 75 年目の夏を迎えます。核兵器は、一瞬にして無差別に何十万もの市民の命と生活を奪い、また、多くの被爆者を生み出し、生涯にわたって健康を侵します。また、今なおその苦しみを世代に渡って与えている非人道的兵器です。しかし、その危険性が確認されているにも関わらず、今も核兵器が大量に配備され、性能・威力は強化され続けています。そして、世界における核兵器の拡散の脅威も増えています。核兵器による壊滅的な結末を防ぐためには、核兵器を廃絶することが唯一の方法です。私たちは唯一の戦争被爆国の国民として、「核兵器廃絶」を世界に訴えていく行動が求められています。

三浦半島地域連合では、毎年、「核兵器廃絶」のうちわなどを市民に手渡ししながら、「核兵器廃絶」と人類共通の願いである「平和」を、地域連合役員・地域連合議員団と一緒に訴え続けています。戦争体験者が減ってきている今、広く市民に「戦争の悲惨さ」や「核兵器の恐怖」などを伝え、「平和」を考える機会を創出することも大切な活動の 1 つと考え、加盟組合の積極的な参加を得て、「平和」を考える取り組みも進めています。連合主催の「平和行動」にも毎年参加し、2019 年度には地域外視察として、地域連合・労福協役員と地域連合議員団で沖縄を訪れ、沖縄に残る悲惨な戦争の歴史などから平和の尊さを深く学びました。

世界では、核兵器廃絶の機運が高まってきています。2017 年 7 月に、国連で「核兵器禁止条約」が採択されました。これは被爆国である日本とすれば望ましい動きであるはずですが、残念ながら日本の批准には至っていません。条約の目標は共有しているにもかかわらず、周辺国との安全保障の観点から、核兵器の抑止力の必要性が排除できないというのが政府の立場です。しかし、今なお苦しんでいる被爆者の声は、二度と核兵器による被害が起こらないことを望んでいます。被爆者の方々が生存している間に、「核兵器廃絶」を実現することが私たちの責務であり、私たちが共有すべき思いです。実現に向けての道のりは大変困難ですが、決してあきらめることなく、それぞれの立場で「核兵器廃絶」を訴えていくことが必要です。

これからも核兵器のない平和な世界を目指して、地域に根差した活動をともに進めていきましょう。



2019 年ピースウィーク終了後の記念撮影

2020 年 8 月 1 日

三浦半島地域連合
議長 及川 政昭

